

じん
背水の陣

背水の陣

(中国の故事)

昔、中国の漢という国に、韓信かんしんという将軍がいました。あるとき、韓信は、趙ちやうという国の大軍と戦うことになりました。韓信の兵は、敵よりもずっと少なく、しかも、集められたばかりで、まだ戦いになれていない兵ばかりでした。

そこで、韓信は、思いもよらない作戦を立てました。わざと、川を背にして、陣じんをしいたのです。後ろは川なので、にげ道はありません。

それを見た趙の兵たちは、「兵法を知らない、おろかな将軍だ。」と笑いました。昔から、戦いでは、川を前にし、山を後ろにして陣じんをしくのがよいとされていたからです。

ところが、いざ戦いが始まると、韓信の兵たちは、すさまじい勢いで戦いました。にげ場がないので、生きのびるには、目の前の敵をたおすしかなかったのです。こうして、韓信の軍は、大軍を打ち破りました。韓信は、兵たちの心の弱さを知っていたからこそ、あえてにげ道をなくしたのです。

この話から、もう後がない、という決死の覚悟で物事に取り組むことを、「背水の陣じん」というようになりました。今でも、「背水の陣じんでのぞむ」のように使われます。



1 韓信かんしんは、何を背にして陣じんをしましたか。

2 趙ちやうの兵たちが、韓信かんしんを笑ったのはどうしてですか。

ア 兵の数が多すぎたから。

イ 兵法に反した陣じんのしき方だったから。

ウ 韓信かんしんが若かったから。

3 韓信かんしんの兵たちが、すさまじい勢いで戦ったのはどうしてですか。

ア にげ場がなく、敵をたおすしかなかったから。

イ ほうびがたくさんもらえるから。

ウ 戦いになれていたから。

4 「背水の陣じん」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 決死の覚悟かくごで物事に取り組むこと

イ 川の近くで休むこと

ウ 敵からにげること